

脳卒中や心臓病の予防や対処法について専門家が説明した県民公開講座＝徳島市の徳島大大塚講堂



脳と心臓の健康学ぶ

徳大病院公開講座に600人

徳島大病院の県民公開講座「脳と心臓の健康は普段の生活が全て」専門家に学ぶ健康雑学（同病院脳卒中・心臓病等総合支援センター主催）が23日、徳島市蔵本町の徳島大大塚講堂であり、オンライン参加を含め約600人が理解を深めた。順天堂大医療科学部の小倉正恒教授がコレステロールと中性脂肪をテーマに特別講演した。中性脂肪や「悪玉コレステロール」とも呼ばれるLDLコレステロールは、いずれも「血中の値が高いと動脈硬化や心筋梗塞などにつながる」と指摘。LDLコレステロール値が180以上の場合「遺伝性の家族性コレステロール血症の可能性がある。日本人の300人に1人いるが知られておらず、早めに相談してほしい」と呼びかけた。

徳島大病院の島田健司特任准教授は、脳卒中と認知症の見分け方について「脳卒中はブレーカーが落ちるような瞬間に言葉が出なくなる一方、認知症は徐々に言葉や記憶が少なくなる」と解説。徳島大大学院の山口浩司講師・総務医長は「肩こりも心臓が原因の可能性がある」と注意喚起し、急激に一過性の肩こりが起き、冷や汗や吐き気の症状を伴うと心筋梗塞の疑いがあるとした。

徳島大病院の西麻希主任栄養士は食事によるコレステロール対策について話した。（木下真寿美）